

～昨日の風 明日の風～  
**経営コンサルタント  
 独白録**

【第109回】 エビングハウスの法則



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、経営改善支援センター(福岡市、URL <http://sien.co.jp/>) 代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

人類の歴史の中で、ここ百年余りの科学技術の発展は目を見張るものがあります。138億年前にビッグバンによって宇宙が誕生し、地球誕生はおおよそ46億年前と言われています。このような「膨張宇宙理論」はもはや現代の常識ともなっていますが、百年前には「宇宙は誕生以来静止している」という固定概念の中でなかなか認められないものでした。宇宙に関わるだけでなく、原子力、量子力学、医学、遺伝学、脳科学、環境学などの発展は今までの常識を次から次に塗り替え、新たな世界を切り開いています。ある作家の言葉を借りれば人類は「神の領域」にまで足を踏み入れたと表現されるほどです。

**脳の記憶容量は250ギガバイト**

先端を行く脳科学の世界では、かなりの部分で脳の性質を明らかにしました。脳のどの部位が人間の感情や行動に影響を与えるのか、意識はどのように認識されるのかなどということも解明されつつあります。特に驚かされるのは、脳の神経系やシナプスの研究により人間の記憶容量が概ね250 GBであるという事実です。長い歴史の中で豊かな数々の芸術を生み出し、科学技術を発達させる人間の脳がわずかその程度の記憶容量しか持っていないのです。私の所有しているMACパソコンの容量が256GBですから大いに驚きました。70年から80年生きるにもかかわらず、人間の記憶容量はT(テラ)サイズではないのです。

**人間は忘却の生き物**

そうした限られた脳の中で何が行われているのかを近年の脳科学は明らかにしています。進化の過程と遺伝子上の問題として人間は忘却するように作り上げられています。記憶に関しては以下のような研究があります。

- 20分後には42%忘れる
- 1時間後には56%忘れる
- 9時間後には64%忘れる
- 1日後には67%忘れる
- 2日後には72%忘れる
- 6日後には75%忘れる
- 31日後には79%忘れる

これは、ドイツの心理学者・ヘルマン・エビン

グハウスが出した「忘却曲線」を表したものです。なんと人間は、1時間後には半分以上、2日後には7割以上、1月経つと8割以上も忘れていくのです。ちなみに、一週間前の夕食の事など多くの人は覚えていません。同時に親しい人を失ったときに味わう悲しみの感情を永遠に記憶するわけにはいかず、忘却の彼方に葬り去ってしまわなければ日常を生きていけないという生物としての本能もあるのかもしれない。

**「メモを取れ！」**

インプット、アウトプットと言うのはコンピュータの世界では入力と出力のことです。人間の脳もまたインプットとアウトプットを必要とします。

現代人におけるインプットとは、本や新聞や雑誌などからの情報、自分の体験に基づいた情報、昨今ではネットからの情報等があります。アウトプットはそれらに基づいた自分なりの発言や行動のことです。そしてそのアウトプットは自分の「信念」や「哲学」に裏打ちされたものである必要があります。特に経営に携わる人間にそれはとても重要なことです。にもかかわらず、人間は忘却の生き物なのでそうしたインプット情報をすぐ忘れてしまいます。そのためにも折に触れてメモを取る事は大切です。

**いつでも調べられるの嘘**

若い人たちを対象にした研修会で、多くの若者がメモを取りません。最近ではベテランの人もそうでしょうか。メモを取らない理由を尋ねると、いつでもネットで調べられるからという答えが返ってきました。しかし、調べるためにも手が必要なのに、彼らはそれを意識していません。科学技術が発達し情報化社会になった分、人間はますます退化しているように思うのはこうした記憶に関する原理原則を知らないからではないかと考えます。

高校や大学を卒業以来勉強していない人物や、ベテランになって全く学ぼうとしない人たちを多く見かけます。皆様方の組織にそういう方はいませんか？ 激しい時代変化の中で最も重要な武器は【人材】です。その人材の磨き方の一端として本文を書きました。